



MFJ SUPERBIKE
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2009 MFJ ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP Rd.1
SUPERBIKE RACE in TSUKUBA



2009年 MFJ全日本ロードレース選手権第1戦 スーパーバイクレース in 筑波

EXTRA, EXpert and EXtreme EXPRESS--

2009 Vol.

1



Photo by H.Wakita(c)

予選で驚異的な速さを見せつけた伊藤真一 亀谷長純、中須賀克行も絶好調! 2009開幕戦筑波を制するのは果たして誰だ!?



一時はリーダーボードのトップに立った亀谷長純。55秒576でセカンドロウ獲得。



ヨシムラの酒井大作もレコードタイムを記録し、3番手グリッドを確保。

INFORMATION

ライブ中継などステージイベント盛りだくさん!



<ライダートークショー>

- 日時: 4月5日(日) ①12:50~(JSB1000)
②16:00~(優勝ライダーズスペシャルステージ)
- 場所: メインスタンド・最終コーナー側ステージカー

<キャンギャルオンステージ>

- 日時: 4月5日(日) ① 9:15~ ②15:00~
- 場所: メインスタンド・最終コーナー側ステージカー

※イベントは、天候その他の理由により、予告なしに変更・中止になる場合があります。あらかじめご了承ください。

TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

10:05	-	GP-MONO コースイン〜選手紹介	
10:20	-	GP-MONO決勝レース.....	18Laps
11:05	-	GP125 コースイン〜選手紹介	
11:20	-	GP125決勝レース.....	25Laps
12:10 - 12:50	-	ピットウォーク ※バドックバスをお持ちの方なら、どなたでも無料で参加OK!!	
13:00	-	ST600 コースイン〜選手紹介	
13:15	-	ST600決勝レース.....	25Laps
14:05	-	JSB1000 コースイン〜選手紹介	
14:20	-	JSB1000決勝レース.....	30Laps
15:15	-	GP250 コースイン〜選手紹介	
15:30	-	GP250決勝レース.....	25Laps
★激感エリア〜B/バドック内ダンロップコーナー奥〜筑波ならではの“超・接近観戦エリア” 要バドックバス			

QUALIFYING PRACTICE REPORT



各クラスのポールシッター。(左から)GP125徳留 真紀、ST600新垣 敏之、JSB1000伊藤 真一、GP250及川 誠人、GP-MONO中木 亮輔



Pole Position 伊藤 真一 0'55.142

「予選になっても車体、エンジンを試行錯誤している状態だった。最後のアタックはタイヤ(の性能)なりに走っただけです。事前テストでヤマハ勢の調子がよくて、ちょっと焦りましたね。亀谷も調子がいいし、簡単にはいかないと思うけれど、いいアベレージで走れば勝つことができるはず。JSB1000クラスの台数は減ってしまっただけ高いレベルのレースを見せたいと思う。ハイレベルで拮抗しているし、おもしろいレースになると思う」



新しいシーズンが茨城県・筑波サーキットで始まった。未曾有の不況の影響から国内最高峰JSB1000クラスの参加台数は減ったものの、そのレベルは落ちるどころか、さらに上がっている。ディフェンディングチャンピオンの中須賀克行は事前テストで、これまでのコースレコードを上回る55秒5をマークし、ライバルに強烈なインパクトを与えた。中須賀が駆るヤマハYZF-R1は、今シーズン、フルモデルチェンジして登場。クロスプレーン型クランクシャフトなどMotoGPマシンのテクノロジーを数多く採用しており、そのエンジンからはMotoGPマシンのような図太いサウンドが奏でられる。公式予選では、中須賀がどんなタイムを出すのか注目が集まった。

木曜日から始まったレースウィークは、すべてドライコンディションで行われ、各ライダーはセットアップに集中。土曜日の公式予選は1時間1セッションで行われた。真っ先に55秒台に入れてきたのはハルク・プロの山口辰也、これに亀谷長純、伊藤真一と続く。その直後に亀谷がさらにタイムを削り55秒576

をマーク。このタイムがセッション終盤まで破られることはなかった。残り5分となったところでリーダーボードのゼッケンが入れ替わる。ゼッケン33伊藤がトップに立ったのだ。タイムは55秒142という驚異的なレコードタイム。これまでのコースレコードが、一昨年に秋吉耕佑が記録した56秒140だっただけに大幅なブレイクとなった。文句なしのポールポジションだったがKeihin Kohara R.T.の小原代表曰く、想定タイムは54秒台だったと言う。「レースウィークに入ってから思いのほか車体が決まらなくてドタバタしてしまっただけ」と想定内のタイムに届かなかったと小原代表は語る。伊藤も「QF(予選)タイヤを使ったし、マシンも本来のパフォーマンスは、もっと上。54秒台を出さなかった」と悔やむ。しかし、「セッティングしながら、最後に1度だけのアタックだったので、まあよしとしておきます。いいアベレージで走れば勝てるはず」と自信のコメント。

伊藤に逆転されたものの2番手となった亀谷も事前テスト、レースウィークを通してノレている。「決勝用タイヤで、いい状態のときにベストタイムが出せた。ずっとレースを想定してタイヤが摩耗してきた状態でも56秒台で走れるセットになっている。とにかく序盤からイキますよ!とスタートダッシュを狙う。

3番手には、やはりQFタイヤを使った酒井大作が入りフロントロウを獲得。「ソフトタイヤを履いても、あまりタイムは変わらない状態。バイクが新しいので、やるべきことが多いけれど、何とかマシンもまとまってきた」とフルモデルチェンジしたヨシムラGSX-R1000をフロントロウに並べた。

●予選日:天候/曇 路面/ドライ
●決勝コースイン/14:05 スタート/14:20(30周)



4番手スタートの山口辰也までがレコードタイムを記録

一方、伊藤とポールポジションを争うと見られていた中須賀は「予選よりも、とにかく決勝が重要ですからね。エンジンブレーキのセットもよくなってきたし、調子はいいですよ。スタートに集中して前に出て行きたいですね」とあくまでもレースを見据える。

ブリヂストンとダンロップのタイヤ特性の違いもあるが、亀谷、中須賀がスタートダッシュを狙っている。これに伊藤、酒井が、どうついていけるか? また4番手につけた山口辰也もアベレージでは負けていない。横江竜司、大崎誠之、柳川明も混戦になれば勝機が見えてくるかもしれない。いずれにせよ激しいトップ争いになる確率は高いと言える。序盤の駆け引き、終盤の勝負所に注目だ!

また、トリック★スターより5年振りに全日本JSB1000クラスに帰ってきた井筒仁康だったが、金曜日にMCコーナー立ち上がりでハイサイドで転倒、左鎖骨を骨折してしまい残念ながら欠場を余儀なくされている。

[佐藤 寿宏]



2列目5番グリッドからスタートする08チャンプ中須賀克行

全日本ロードレース選手権

GP125 youth CUP に注目しよう!

若手育成を目的として、17歳以下(登録時)の選手を対象にGP125クラスに設定されている『ユースカップ』。今シーズンはスポット参戦を含め、総勢19名がエントリーしている。ここ筑波には、そのうち17名がエントリー。全42台中ユースカップのライダーが半分近くを占め、予選から若さ溢れるアタックを見せた。中でも初参戦の浦本修充(14)と、昨シーズンはレッドブルMotoGPルーク・エドワーズに出場していた篠崎佐助(15)の勢いが目を引く。

「全日本へ出場するのは初めてで不安もあったけど、思ったより予選でいい位置につくことができてホッとした。まずはユースカップのトップでチェッカーを受けたい!という浦本は予選2番手を獲得。

「タイムアタック中に何度も前が詰まってしまう思ったようにタイムが伸びなかった」という篠崎は4番手から全日本初優勝を狙っている。GP125クラスはティーンズライダーの成長にも注目して欲しい!



篠崎 佐助(左:しのざき さすけ) / 浦本 修充(右:うらもと なおみち)

JSB1000 Class Starting grid

1 R 55.142 33 伊藤 真一 KeihinKoharaR.T.	2 R 55.576 8 亀谷 長純 Honda DREAM RT 桜井ホンダ	3 R 55.664 39 酒井 大作 ヨシムラスズキwithJOMO
2 R 55.839 634 山口 辰也 MuSASHi RTハルクプロ	5 56.153 1 中須賀 克行 YSP Racing Team	6 56.224 62 横江 竜司 RT森のくまさん佐藤塾
3 56.311 56 高橋 巧 バーニングブラッドRT	8 56.538 2 大崎 誠之 SP忠男レーシングチーム	9 56.741 87 柳川 明 TEAM GREEN
4 57.421 34 高橋 孝臣 MOTO BUM HONDA	11 57.528 32 今野 由寛 MotoMap SUPPLY	12 57.637 18 東村 伊佐三 RS-ITOH&ASIA
5 57.925 27 西嶋 修 BEET RACING	14 58.156 30 清水 郁巳 ホンダドリームR.T高崎B'WISER.T	15 58.559 26 山中 正之 ホンダ Q選会 明和レーシング
6 58.92 36 桐井 有希 BATTLE FACTORY	17 58.932 31 石川 朋之 Z-TECHwithビジネスラアート	18 58.959 83 須貝 義行 チームドックティレーシングジャパン
7 59.233 38 原田 洋孝 R.S.ガレージハラダ姫路	20 59.421 704 中村 知雅 中村エンジン研究所	21 1'00.207 46 掛江 裕二 TEAM☆STRADA
8 1'00.212 40 喜多田 学 (有)成田総合サービスTS東		

R マークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは56.140

史上稀に見る激戦区 ST600を斬る

ST600 Battle of 2009

今シーズン、全日本ロードレース選手権で一番の激戦区となっているのがST600クラス。JSB1000クラスから手島雄介、佐藤裕児、GP250から関口太郎、濱本裕基、GP125から渡辺一馬、そしてスーパーバイク世界選手権から全日本に復帰した中富伸一が参戦するなど実力のあるライダーが集結し、話題に事欠かない。今回の開幕戦激戦区には47台が出走し17台が予選落ちとなったが、ポールポジションを獲得したのは44歳の大ベテラン、新垣敏之だった。トライアンフでエントリーしていた新垣だったが、マシンが間に合わないため、急遽'08年型ヤマハYZF-R6を借りてきたと言う。タイヤは、今回初めて履くピレリ。18年前にGP250クラス時代を走っていたときのメカニック、ガレージ国政の国政氏に来てもらい、いい感じになってきたと語る。新垣は、2年前にも筑波でポールポジションを獲得しているが、そのときはHonda CBR600RRを駆っており、このときは58秒847をマークしている。マシンを選ばない速さは目を見張るものがある。決勝でどんな走りをするか注目したいところだ。

2番手につけた手島は、4年振りのST600でのレースとなる。JSB1000クラスを3シーズン走ってきただけに、そのスキルは確実に上がっている。「ちょっと問題があって午後はタイムアップができませんでしたが、原因が分かったので決勝は

大丈夫でしょう。理想は逃げたいのですが難しいでしょう。小西さんはレース運びがうまいので、勉強したいですね」と手島(写真下)。ディフェンディングチャンピオンの小西良輝は今シーズンよりサスペンションをホワイトパワー製に変更。「少ない時間の中でトライしながら、いい状態になってきました。決勝は手島との争いになるでしょう」とレースを展望する。

4番手にカワサキZX-6Rを駆る清水直樹が入り健闘。佐藤裕児、佐竹隆幸、武田雄一とヤマハ+ダンロップの組み合わせが続き、ST600初レースとなる渡辺一馬、野田弘樹が3列目に並ぶ結果となっている。



ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日: 天候 / 曇 路面 / ドライ
●決勝コースイン / 13:00 スタート / 13:15 (25周)

POLE POSITION INTERVIEW

新垣敏之がP.P.獲得。
手島雄介、小西良輝が
フロントロウに並ぶ



Pole Position 新垣 敏之 0'58.715

『最初はトライアンフで出場予定だったが間に合わず、マシンを用意できたのが2週間前。短期間で仕上げるため、18年前、250時代のメカニックを呼んだ。久々のやりとりだったがセットアップもしやすく、いいマシンができた。ピレリのタイヤもマッチングが良く、コントロール性に優れている。コンパウンドも3種類ありチョイスすることができる。予選はソフトコンパウンドで行ったが、決勝は朝(ウォームアップで)決めるつもり。今回はレースを楽しみたいね』

ST600 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	20	新垣 敏之	58.715	TeamARA 虎の穴
2	48	手島 雄介	58.867	TSRwithALT
3	634	小西 良輝	58.964	MuSASHi RTハルクプロ
4	16	清水 直樹	59.000	RS-ITOH&KAZE
5	81	佐藤 裕児	59.122	YSP Racing Team
6	19	佐竹 隆幸	59.13	チームOSG&モトスポーツ
7	7	武田 雄一	59.17	HITMAN RC甲子園ヤマハ
8	49	渡辺 一馬	59.181	TEAM PLUS ONE
9	6	野田 弘樹	59.273	デルル・ハニービーレーシング
10	14	岩田 悟	59.274	TSR
11	15	津田 拓也	59.356	チームOSG&モトスポーツ
12	38	中富 伸一	59.445	HiTMAN RC甲子園ヤマハ
13	705	黒川 武彦	59.449	松本クリニックVIPスピード
14	10	高橋 江紀	59.479	KeihinKoharaR.T.
15	76	関口 太郎	59.53	Team TARO&PLUS ONE
16	73	小林 龍太	59.552	MuSASHi RTハルクプロ
17	46	C.POLAMAI	59.655	Petronas Yamaha Thailand R.T.
18	27	大木 崇行	59.796	club HARC-PRO.
19	9	生形 秀之	59.805	エスパルスドリームレーシング
20	4	稲垣 誠	59.821	バーニングブラッドRT
21	55	岡川 浩道	59.825	DyDoミウレーシングチーム
22	39	新庄 雅浩	59.855	RT俊匠ストンズ
23	41	秋谷 守	59.97	K-max Racing
24	45	D.KRAISART	1'00.018	Petronas Yamaha Thailand R.T.
25	25	川原 英実	1'00.020	G-TRIBE Racing.
26	2	宮崎 敬	1'00.027	TEAM DAYTONA
27	26	東浦 正周	1'00.047	プラスミューレーシングチーム
28	11	寺本 幸司	1'00.071	PLOT FARO バンテラ
29	75	豊田 浩史	1'00.118	D-REX
30	32	大栗 竜也	1'00.128	伊藤レーシングGMDスズカ
**** 以上予選通過 ****				
31	34	萩原 勝彦	1'00.135	オートショップアオヤマ
32	31	中津原 尚宏	1'00.143	研究会栃木PGLレーシング
33	44	斎藤 一輝	1'00.162	ウイングヨシイ.R.C
34	47	濱本 裕基	1'00.205	SP忠男レーシングチーム
35	43	小田 茂昇	1'00.251	エスパルスドリームレーンジャー
36	86	中村 勇志	1'00.263	ピレリ・丸富オート
37	30	小菅 岳大	1'00.302	CLUB HARC-PRO.
38	35	近藤 湧也	1'00.335	GRACERACINGTEAM
39	54	井上 哲悟	1'00.355	GRACERACINGTEAM
40	8	出口 修	1'00.359	PLOT FARO バンテラ
41	22	中山 真太郎	1'00.362	KoharaRC
42	33	深津 拓真	1'00.798	PLOT FARO バンテラ
43	29	草壁 伸一	1'00.906	DOG FIGHT RACING
44	71	須磨 貞仁	1'00.928	H.M.F.
45	91	中山 智博	1'01.045	RS-ITOH&KAZE
46	57	横山 耕二	1'01.064	CLUB HARC-PRO.
47	36	五十嵐 明弘	1'01.518	Team Verity

●予選日:天候/曇 路面/ドライ
●決勝コースイン/11:05 スタート/11:20(25周)

POLE POSITION
INTERVIEW

徳留、菊池のベテラン
に対し、ユース浦本、篠
崎らが勝負を挑む!!



Pole Position 徳留 真紀 1'00.241

『前日(A.R.T.走行)の方がタイムに伸びしろがあった。問題を解決すればタイムが上がると思ったが、予選では頑張ったわりにタイムを縮められず、自分の意識とコンマ5秒くらいのずれがあった。決勝では最初は若手が元気に走るだろうから様子を見ようと思う。でも菊池さんも調子を上げてきているから、あんまりのんびりもしてはいられないですね。まずはマシンをいい方向にセットアップして、全日本の初優勝が欲しい』

GP125 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	2	徳留 真紀	1'00.241	チーム テック・2
2	48	★浦本 修充	1'00.328	TEAM IRONBARONS
3	1	菊池 寛幸	1'00.413	チームウイリー
4	68	★篠崎 佐助	1'00.449	チーム テック・2
5	41	宇井 陽一	1'00.503	41PLANwithSpruce/PT
6	5	山田 亮太	1'00.560	TEAM PLUS ONE
7	11	矢作 雄馬	1'00.580	桶川塾&ENDURANCE
8	20	★大久保 光	1'00.687	18 GARAGE RACING TEAM
9	16	鎌田 悟	1'00.757	ENDURANCE +桶川スポーツランド
10	55	岩田 裕臣	1'00.799	DyDoミウレーシングチーム
11	6	柳沢 祐一	1'00.804	18 GARAGE RACING TEAM
12	91	★森 俊也	1'00.847	racing sayama
13	13	★山田 智己	1'00.881	伊藤レーシングGMDスズカ
14	3	★尾野 弘樹	1'00.915	BATTLE FACTORY
15	8	★日浦 大治朗	1'00.974	Team NOBBY
16	12	仲城 英幸	1'01.004	Projectu7C HARC
17	34	★日浦 徹	1'01.055	Team NOBBY
18	45	★森 俊也	1'01.129	TeamProjectu 7C
19	25	★山本 剛大	1'01.148	Team NOBBY
20	77	安村 武志	1'01.199	チーム テック・2
21	53	人見 研吾	1'01.238	Y.U.E.レーシング
22	63	★石崎 司也	1'01.343	18 GARAGE RT たかだ農園
23	50	★尾野 郡司	1'01.368	BATTLE FACTORY
24	51	★藤井 謙次	1'01.558	TSR
25	26	★梅藤 俊光	1'01.571	BATTLE FACTORY
26	15	古市 右京	1'01.573	EUROPORT&ASPIRATION
27	22	菅谷 慎一	1'01.576	TEAM PLUS ONE
28	24	★中本 翔	1'01.662	18 GARAGE RACING TEAM
29	72	★濱原 颯道	1'01.692	桶川塾&ENDURANCE
30	17	天野 邦博	1'01.797	Honda狭山レーシングチーム
31	19	今中 満	1'01.971	team RISKY
32	401	沖藤 陽一	1'02.022	オートテクニクススポーツ48会
33	28	大塚 卓也	1'02.047	HondaブルーヘルメットMSC
34	27	小嶋 栄	1'02.083	モトアルファ&大洗サーキット
35	29	坂井 幸雄	1'02.214	TeamSMOKY☆ぼん太
36	99	佐藤 正之	1'02.402	racing sayama

***** 以上予選通過 *****

37	32	★丸山 隼一	1'02.461	TEAM i-FACTORY
38	47	福島 宏幸	1'02.698	team RISKY
39	31	川瀬 和希	1'03.318	CLUBY's★J-OFFICE
40	21	村田 憲彦	1'03.396	CLUBY's★J-OFFICE

※★印は2009年ユースカップ登録者

●予選日:天候/曇 路面/ドライ
●決勝コースイン/15:15 スタート/15:30(25周)

POLE POSITION
INTERVIEW

及川誠人が安定した
速さでP.P.獲得。
渡辺一樹は初の一列目



Pole Position 及川 誠人 0'58.272

『予選は7秒台を想定していたが、目標に置いていたタイムには届かなかった。決勝タイヤでそこそこいいタイムが出たので、リアを柔らかめに替えて出て行ったらマッチングしなかった。決勝では宇井選手が必ずトップ争いに出てくるはず。タイヤの特性を活かして、後半抜け出す展開に持ち込みたい。これまでGP250クラスにこだわって、ずっとやってきたがまだ勝てずじまい。なんとか勝って250最後のシーズンを終えたいですね』

GP250 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	3	及川 誠人	58.272	COLT&SJ-R
2	41	宇井 陽一	58.337	41PLANwithSpruce/PT
3	8	渡辺 一樹	59.108	COLT&SJ-R
4	33	藤田 拓哉	59.256	2りんかんRT&DOG FIGHT R
5	46	星野 知也	59.395	ミクニBeat 4413
6	21	中本 都	59.398	Racing Team OUTRUN
7	48	柴原 誠	59.477	K-max racing
8	24	小口 理	59.845	ALLMAN&OW小口歯科医院
9	14	福山 京太	1'00.148	TEAMモトスポーツ
10	22	小口 亘	1'00.404	ALLMAN&OWRACING
11	25	前川 泰志	1'00.676	ロケット・けろたん
12	20	依田 幸久	1'00.699	TeamDankeRacing
13	26	依田 忍	1'00.883	Garage 4413
14	36	飯塚 弘樹	1'01.259	ガレーダ国政&飯塚自動車商会
15	19	中尾 健治	1'01.283	レイラスポーツ
16	75	高杉 泰緒子	1'01.306	バーニングブラッドRT
17	27	土田 泰弘	1'02.845	RISE136+DGZ

●予選日:天候/晴 路面/ドライ
●決勝コースイン/10:05 スタート/10:20(18周)

POLE POSITION
INTERVIEW

中木亮輔がP.P.獲得
2番手には僅差で
迫った花房一樹



Pole Position 中木 亮輔 1'01.735

『前日の午後にやっとバイクができて(A.R.T.走行)2回目はなんとか走ることができたが、マシンは中古パーツのかき集めで、予選が実質シェイクダウン。予選では周りのタイムが出なかったから1番になれただけ。TZの車体を使っているので、マシンにはすぐに慣れたが、BSの特性もまだ掴めていない。今やっとスタートラインに立ったところ。昨年はチャンピオンを取りたかったができなかったもので、決勝では少しでも多くのポイントを取って、今年は絶対チャンピオンを取ります』

GP-MONO 公式予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	4	中木 亮輔	1'01.735	オールスターモータースポーツ
2	87	花房 一樹	1'01.782	テック・2&nyusan.com
3	12	林 達也	1'02.151	teamA.A.O!!
4	11	小室 旭	1'02.189	TeamKOMUROWITHHARC
5	6	谷川 壮洋	1'02.345	TEAM PLUS ONE
6	36	岡崎 智	1'02.516	team KAZUMA
7	3	藤井 謙次	1'02.620	TSR
8	35	渡辺 陽向	1'02.679	TeamProjectu7C
9	95	瀬古 直樹	1'02.713	ZIPBIKE&TOS-R
10	19	山田 俊樹	1'02.775	MRF.RH松島&田中製作所
11	5	岡田 義治	1'02.813	MRF.RH松島&田中製作所
12	46	星野 知也	1'02.828	ミクニBeat 4413
13	66	丸山 美由貴	1'02.920	オールスターモータースポーツ
14	28	吉道 竜也	1'02.964	レーシングチームハニービー
15	13	小畑 仁	1'02.983	MOTO WIN RACING
16	16	赤間 清	1'03.036	CLUB HARC-PRO.
17	30	矢田 栄一郎	1'03.241	MOTO BUM HONDA
18	18	根村 拓歩	1'03.299	18 GARAGE RACING TEAM
19	7	比企 徹	1'03.452	レーシングサブライム斗雲
20	58	松井 洪弥	1'03.578	TEAM PLUS ONE
21	52	川村 明	1'03.734	MOTO WIN RACING
22	25	高瀬 敬次	1'03.802	Gyueeeen マックウェスタン
23	65	繁野 明治	1'04.092	ホットバンクUSA&GET HOT
24	64	小倉 弘	1'04.469	TS関東&小倉電設
25	34	畑中 要	1'04.504	FTR・タイヤナビ・Big☆教
26	37	坪川 浩明	1'04.517	TEAM-MARGUERITE
27	51	増田 顕也	1'04.555	クラブM+松田塾+彌RT
28	32	楠元 晃一	1'04.588	Garage130R&Jr's
29	33	小山 隆浩	1'04.628	18 GARAGE RACING TEAM
30	38	三好 菜摘	1'04.682	YZ250F
31	72	岩本 有司	1'05.145	銀色バイク+Kfb+PXR+鞍馬ザンド